

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人 ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かももの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	2020年8月3日	評価結果市町村受理日	令和2年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2020年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぬくもりの里かもものでは、田園地帯の中で自然が多く残されており、住みよい環境の中に建てられています。住居ではゆったりとした居室大きなリビング等住みやすい快適な空間が広がっております。季節に合わせた行事が盛りだくさんです。お花見・紅葉狩り・誕生日会など、また、同法人主催の夏祭りにも参加しています。年一回の日帰り旅行や一泊旅行にはご家族の参加もみられ、利用者の方もとても楽しみにしております。医療面では月2回の往診を受けて頂き、健康管理・口腔衛生・服薬管理を行っており、又各棟に看護師を配置し、急病などの場合も迅速に対応しております。入浴の好きな方の状態が変化した場合でも2人介助し又、同法人の機械浴を利用して頂くなど支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

排泄の自立支援への意識が高く、失敗や状態が変化しても安易にリハビリパンツに変更しないで職員間で話し合っ布パンツでの生活が維持できるように取り組んでいる。日中は、トイレ誘導を行い全利用者が布パンツで過ごしている。職員は、利用者のペースを大切に、見守ることを心掛けて穏やかにゆっくりと過ごせるように配慮している。事業所から家族に声を掛けて、職員が付き添って利用者と一緒に一泊で温泉に出掛けている。管理者は、職員の意見を大切に、明るく働きやすい職場作りを心掛けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて理念の唱和をし共有に努めている。	管理者は、利用者のペースでゆっくりと過ごせるように支援することを伝えている。気付いたことがあれば、個別にアドバイスしている。職員は、利用者の気持ちに寄り添いケアすることを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、周辺ボランティアの受け入れをしている。	散歩に出掛けて地域の人と挨拶を交わしたり、野菜をいただいたりしている。自治会に加入し事業所の避難訓練の案内を回覧して協力が得られている。地域の幼稚園から招待されて、お遊戯会に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っている。又市が実施した認知症高齢者の探索訓練において職員が高齢者のモデルとして参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催し大半の方の参加を頂いております。参加された方からの意見等を取り組みに活かしており家族の方には内容をまとめ郵送にてお知らせしております。	会議では事業所の状況や取組内容を報告している。感染症対策や災害対策、外部評価などに多くの意見が出され話し合っている。助言を受けて水害時の避難訓練を実施したり、備蓄を見直したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、情報交換を密に取り連携を心がけております。	書類の提出時や電話連絡した時に市の担当者や情報交換している。市主催の会議に出席して情報交換することもある。市の担当者が事業所を訪れた時に、事業所の状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し内部の会議等で話しあっている。身体拘束をしないケアを確認しあい、実践している。	前回の外部評価を受けて職員間で話し合い、車椅子に付けていた鈴を外すことが出来た。会議等で拘束について話し合ったり、外部の研修に参加したりしているが、委員会や研修会の記録を確認することが出来なかった。	拘束の具体的な内容や弊害など正しく理解するために、定期的に委員会や研修会を開催できるように取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については外部研修を受講し、内部会議にて話し合い、虐待についての共通認識を持っている。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば、活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者家族の方が、不明な点、疑問点があれば十分時間をとり説明をし、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、時間を頂きご意見・ご要望をお聞きしている。出た意見については、すぐに検討し対応している。	家族が来所した時に近況を報告し、要望を聞いている。毎月、手書きで利用者の近況を報告している。家族から職員の名前を分かるようにして欲しいと意見があり、職員間で話し合っって名札を付けるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会をつくり、その都度話をしている。	管理者は、現場に入り、日頃から職員の意見を聞くように心掛けている。毎月の会議で出された意見や要望を、本社の会議に提案している。休憩の取り方について意見が出され、話し合っって改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員個々の実績や努力・勤務状況等を把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心が持てるように、職場環境や条件の整備に努め、楽しくやりがいをもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して、外部研修・内部研修を行っている。又職員の資格取得については、積極的にスキルアップを図れるようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問を通じ、情報交換を図っている。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活出来るような関係作りを心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや、要望などを時間をかけてじっくりと聞きとれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いその時に必要な支援を見極め、適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物など以前やっていた事を通じてレクや物作り等を一緒に行う時間を作り、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支えあう気持ちを持って利用者支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院に行ったり、墓参り等に外出をし、外出時には、家族や友人と外食したりしている。	利用者の思いを家族に伝え馴染みの美容室や花火見学に出掛けている。家が気になる利用者と一緒に自宅まで出掛けている。ボランティアに来所した方が利用者の知人であったため、再訪をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士を見極め、良好な関係が保てるように支援している。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも、面会などをさせて頂いております。施設側とも連携しより良いケアができるよう支援させていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を通じて思いを聞き、充実した生活が送れるよう努めている。	日常の会話から利用者の思いを把握している。入浴時や利用者が話したい時に聞くよう心掛けている。利用者の状態に合わせて筆談で聞く方もある。困難な場合は表情やしぐさから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には利用している施設に出向き、サービス利用の経過把握や生活歴の把握に努めています。入所後はカンファレンスにて情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めています。変化があれば、申し送り、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族同席の担当者会議の関係を心がけております。それを基にサービス計画書を作成している。	家族が来所した時や電話にて状態を説明し要望を聞いている。定期的にモニタリングを行い会議で話し合っ、職員の意見を計画に反映している。医師の意見や状態が変化した時は、その都度計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良いケア繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加して頂けるように案内を出させてもらってます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医は本人家族の意向に合わせている。他科受診は家族に依頼しており、本人の状態等は常にご家族と共有し連携に努めている。	かかりつけ医には家族が同行し受診している。家族が同行する場合は、文章で状態を伝えて得ている。事業所からかかりつけ医に電話で状態を伝えることもある。受診の結果を家族に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事など看護師に伝え相談し、医療的な事への対応を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族・病院と良好な関係が保てるように努めています。又病院の相談員との連携を密にとり、情報収集に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴いその都度医師・家族・看護師等と話し合いながら対応している。又看取りもさせてもらってます。救急対応は消防署・看護師による指導にて職員が全員研修をうけている。	契約時に事業所の方針を説明し家族の意向を聞いている。看護師から個別に詳細な対応を介護職員に伝えている。状態の変化に伴い、早い段階から話し合っ意向に添えるように支援している。家族が居室に泊まり一緒に看取ったこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の連絡網をつくり地域との協力体制が図られています	地域の協力を得て定期的に避難訓練を行っている。豪雨や台風などの水害を想定して、法人の他事業所まで利用者と一緒に避難するなど工夫している。水やカセットコンロなど備蓄している。	

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しトイレ前や居室入り口にカーテンを設置し、外から見えないようにしている。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしている。	職員は、排泄に関して大きな声で言わないように心掛けている。気持ちを考え、利用者に向けた声掛けが出来るように工夫している。トイレの前にカーテンを設置しているが、戸を開けたままで介助している。	職員間で話し合い、プライバシーや羞恥心に配慮した支援が出来るような取り組みを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面において、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなどご自分で選んでいただけるように支援している。又出張床屋にて散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事に合わせてその都度メニューを変更しています。テーブル拭き・消毒・お膳拭きなどのお手伝いをしております。	ホットケーキを焼いて利用者が好きな物をトッピングするなど一緒におやつを作っている。下調理やテーブル拭き、配膳など出来ることを手伝っている。昔懐かしい音楽を流して落ち着いて食事できるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給毎食後に摂取量を記入し個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っています。ケア困難な方は職員がハミガキティッシュを使用し口腔ケアにつとめています。		

## ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄管理表から利用者の排泄パターンを作成しています。	安易にリハビリパンツにしないで、職員間で話し合っ布パンツでの生活が継続できるように支援している。間隔が空いた時は声を掛けて誘導している。日中は、トイレ誘導を行い全利用者が布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫・十分な水分補給看護師による排便コントロールを行っています。排泄チェック表からその人それぞれの排泄パターンに応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度者の方も2人介助で可能な限り浴槽に入ってもらえる様支援している。男性・女性と偏らないように工夫している。	入浴の順番や湯温、時間など利用者の希望に添っている。入浴が困難な方は、法人の他事業所の機械浴を利用することができる。職員は、昔の話をしたり、歌ったり楽しみながら入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し午前・午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足を挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬の事が一目で分かるようになってます。服薬時には名前等声出して確認を行い誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見つけ支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、戸外にでる機会を作っている。	家族の協力を得て、盆や正月に帰宅している。事業所より家族に声を掛けて、職員が付き添って、利用者と一緒に一泊で温泉に出掛けている。利用者が外出したい時は、職員が付き添って、散歩や近くの店に買い物に出掛けている。	



ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入所者の方はお金を持っていない為支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的に書いてもらうよう支援しています。又、電話を希望される方には取次などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者との共同作業で作成した作品が飾られており季節感を表現している。廊下にはベンチ、リビングにはソファを配置し寛げるように配慮している。	リビングに利用者と一緒に作成した作品を飾り季節感を採り入れている。廊下に行事や外出など思い出の写真を飾り、会話のキッカケとなっている。感染症予防対策として、オゾン発生装置を設置して快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置かれ寛ぎの空間となっています。又、廊下のベンチは憩いの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者希望でテレビや筆筒等の調度品がおいてあります。居室にはご家族との写真や一緒に作った作品等を貼ったりして寛ぎの空間となっています。	使い慣れたタンスや小物入れを持ち込んでいる。家族の写真や作品、誕生会の色紙などを飾っている。夫の遺影を飾り、毎朝お茶を供えてお経を唱えている方や新聞を購入し好きな時に読んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ・廊下には手すりが設置してあり安心・安全で自由に自立した生活が送れるようになってます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人 ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームめぐもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	2020年8月3日	評価結果市町村受理日	令和2年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2020年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて理念の唱和をし共有に努めている。又「穏やかにゆっくり」というモットーをあげ常に意識し声を掛け合え介護を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と園児・周辺ボランティアの積極的な受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っている。又市が実施した認知症高齢者の探索訓練において職員が高齢者のモデルとして参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催し大半の方の参加を頂いております。参加者の方や知人の経験談など話していただき、当施設への取り組みにいかしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、情報交換を密に取り連携を心がけております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し内部の会議等で話しあっている。身体拘束をしないケアを確認しあい、実践している。車椅子に付けている鈴をはずす事が出来た。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については外部研修を受講し、内部会議にて話し合い、虐待についての共通認識を持っている。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば、活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者家族の方が、不明な点、疑問点があれば十分時間をとり説明をし、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、時間を頂きご意見・ご要望をお聞きしている。出た意見については、すぐに検討し対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会をつくり、その都度話をしている。従業員代表を選出した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員個々の実績や努力・勤務状況等を把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心が持てるように、職場環境や条件の整備に努め、楽しくやりがいをもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して、外部研修・内部研修を行っている。又職員の資格取得については、積極的にスキルアップを図れるようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問を通じ、情報交換を図っている。		

めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活出来るような関係作りを心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや、要望などを時間をかけてじっくりと聞きとれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いその時に必要な支援を見極め、適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物など以前やっていた事を通じてレクや物作り等を一緒に行う時間を作り、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支えあう気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院に行ったり、墓参り等に外出をし、外出時には、家族や友人と外食したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士を見極め、良好な関係が保てるように支援している。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも、面会などをさせて頂いております。施設側とも連携しより良いケアができるよう支援させていただいております。看取りをさせて頂いたご家族にはお見送りさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から趣味や特技を把握しそこを充実できるように取組しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には利用している施設に出向き、サービス利用の経過把握や生活歴の把握に努めています。入所後はカンファレンスにて情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めています。変化があれば、申し送りし、特に注意するようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族同席の担当者会議の関係を心がけております。それを基にサービス計画書を作成していますが、中々難しいので電話にて確認させてもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良いケア繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。変化があれば、変更し報告するよう努めている。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加して頂けるように案内を出させてもらってます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医は本人家族の意向に合わせている。他科受診は家族に依頼しており、本人の状態等は常にご家族と共有し連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事など看護師に伝え相談し、医療的な事への対応を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療を受けられるようにご家族・病院と良好な関係が保てるように努めています。又病院の相談員との連携を密にとり、情報収集に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴いその都度医師・家族・看護師等と話しあいながら対応している。又看取りもさせてもらってます。救急対応は消防署・看護師による指導にて職員が全員研修をうけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の連絡網をつくり地域との協力体制が図られており、災害時の避難場所としての受け入れを受託している。水害に対する準備・訓練を予定しています。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しトイレ前や居室入り口にカーテンを設置し、外から見えにくいようにしている。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面において、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなどご自分で選んでいただけるように支援している。又出張床屋にて散髪をしている。又、家族の協力により、馴染みの美容院に行かれる方もみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の献立表を作成してはいますが、誕生日や行事に合わせてその都度メニューを変更したりしています。今年は外出が出来なかったので、「今日は何の日」にちなんでパフェやラーメンを提供した時もありました。配膳や片付けを一緒にして頂く事もあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給毎食後に摂取量を記入し個人個人の栄養補給の支援をしています。体重を月に一回測定し記録していますので、それを目安としています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っています。ケア困難な方は職員がハミガキティッシュやスポンジを使用し口腔衛生に努めています。		



ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄管理表から利用者の排泄パターンを作成しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫・十分な水分補給看護師による排便コントロールを行っています。排泄チェック表からその人それぞれの排泄パターンに応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度者の方も2人介助で可能な限り浴槽に入ってもらえる様支援している。男性・女性と偏らないように工夫している。同一法人の他事業所の機械浴を利用する時もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し午前・午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足を挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬の事が一目で分かるようになってます。服薬時には名前・日付等利用者と声出して確認を行い誤薬のないよう細心の注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見つけ支援を行っています。又、外出などで気分転換を図っています。今年は外出が出来ず、施設内での楽しみ会を開催しました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、戸外にでる機会を作っている。中庭でのお茶を計画。		

ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入所者の方はお金を持っていない為支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的に書いてもらうよう支援しています。又、電話を希望される方には取次などの支援をしています。コロナ感染防止の観点から、面会を制限させて頂いた為、オンライン面会を支援しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者との共同作業で作成した作品が飾られており季節感を表現している。写真も多く貼り会話のきっかけになるようにしている。廊下にはベンチ、リビングにはソファを配置し寛げるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置かれ寛ぎの空間となっています。又、廊下のベンチは憩いの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者希望でテレビや椅子・筆筒等の調度品がおいてあります。居室にはご家族との写真等を貼ったりして寛ぎの空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ・廊下には手すりが設置してあり安心・安全で自由に自立した生活が送れるようになっています。		

(別紙4(2))

事業所名 ぬくもりの里かもの

## 2 目標達成計画

作成日: 令和 2年 11月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	委員会がなく研修会を開催していなかった。	委員会の発足各棟1名ずつ選任する。	定期的な委員会と研修会の開催。	1ヶ月
2	36	トイレ前に設置してあるカーテンのみでドアを開けたまま介助していた。	ドアを閉めるようにする。	安全確認ができ次第ドアを閉め暫くして様子を見る。 介助が必要な方に関しては、ドアの外で待つようにする。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。